

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ともにつくる居場所づくり「農・福・観(環)」連携事業 地域みんなで創り出す！富士見町産じゅんかん育ち		
事業主体 (連絡先)	合同会社つくえラボ 0266-55-5882		
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくり／(6)産業振興、雇用拡大(オ その他)		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	1,932,334	円(うち支援金: 1,545,000	円)

事業内容

[A]じゅんかん育ち勉強会

じゅんかん育ちの栽培に取り組む意義や効果、ゼロカーボンとの関連性を座学と実践を通して学び、富士見町ならではの資源の循環利用モデルの構築を地域協働で取り組んだ。また、本勉強会の中で得られたデータや情報を冊子「富士見町産じゅんかん育ちのすゝめ」にまとめて配布。

A-1. 座学篇 じゅんかん育ちの特徴や取り組みの意味などを各分野の専門家による座学及びディスカッションを通して学ぶ。

【実施回数】4回 【参加者】リアル 29名+オンライン 13名

A-2. 実践編 野菜やお米の栽培、副資材の利用、関連施設の見学など、実践を通してじゅんかん育ちについて学ぶ

【実施回数】21回 【参加者】リアル 108名+オンライン 8名



事業効果

①勉強会を通して一緒に学び、農作業を行うことで地域住民と参加者が交流を深めることができた。参加者延人数 158名、講師 16名。

(勉強会参加費売上 59,500円)

②土壌の物理性・化学性を分析し総合評価点を比較。12圃場のうち有機物を2年以上積極的に施用をした6圃場(19a)の平均は67点、慣行農法の5圃場の平均は62.8点となり、有機物施用の地力向上(炭素貯留量増)への有効性が確認できた。

③耕作放棄地・休耕地(19a)を試験圃場として活用。古民家1件を勉強会の会場として利用。また、農業資材としても汚泥発酵肥料・落葉・米ぬか・菌床・籾殻を堆肥化、さらに、町内の竹林から切り出した竹を竹炭にして畑に還元するなど、地域にあるものを活用して化学肥料の代替として循環利用することで廃棄物の減容や放置竹林の延伸防止に貢献。

④②③の実現により、じゅんかん育ちのコシヒカリの食味値が過去最高得点の98点となり、ふるさと納税の返礼品としても採択された(売上39,500円)。また、じゅんかん育ちのキアカリを分析した結果、糖度・抗酸化力・ビタミンC・硝酸イオンいずれも平均値以上で、身体に美味しい農産物コンテス2023のじゃがいも部門にノミネートされ高評価を得ることができた。

⑤地域住民とあわせて、下水道広報プラットフォーム、NPO循環型環境・農業の会、東京大学、慶應義塾大学、エンザイム(株)、共和加工(株)、(株)日水コン、滋賀県流域下水道、富士見町役場、セイコーエプソン、アトリエDEF、まちづくりラボ、等、町内外の多くの個人・団体が勉強会の講師や参加者として参画。

今後の取り組み

じゅんかん育ち勉強会を通して地域住民や有識者の方々から学んだ様々な知見をまとめた冊子「富士見町産じゅんかん育ちのすゝめ」を活用し、富士見町産じゅんかん育ちの栽培に取り組む仲間を増やし、環境と経済が両立する富士見町産ならではの資源循環型農業の実現を目指していく。また、勉強会や農業体験を交流コンテンツとして活用し、誰もが役割をもって活躍しながら楽しめる、農をベースにしたコミュニティの形成を目指す。

【目標・ねらい】

- ①地域福祉への貢献
- ②環境配慮型農業の実現
- ③地域未利用資源の有効活用
- ④富士見町産じゅんかん育ちの品質の見える化
- ⑤多様なステークホルダーとの協働

※自己評価【A】

②④の効果が明確に数値化され、客観的な評価も得ることができ、冊子「富士見町産じゅんかん育ちのすゝめ」も完成し、富士見町産じゅんかん育ちの環境性や高品質性について根拠をもって積極的にPRできるようになった。また、勉強会を通して様々な協働者につながる事ができたことで、将来的な活動の幅が広がると考えられるため。